

# 「就職面接必勝法」

箱田 忠昭

## 1. 社会人に求められる能力は2つある

新卒であっても、途中入社であっても、社員として採用される場合、会社側として応募者に求める資質は何でしょうか。専門的な能力つまりテクニカルスキルは最も大切なものです。しかし、それと同時に大切な能力はヒューマンスキルです。

つまりこの業務の専門家でありながら、人間的側面も非常に大切です。

学生時代は試験で点数の良い人が良い学生といわれてきました。しかし、会社に入ってから是对人対応能力、素直さ、情熱、忍耐力、協調性、正直さ等が求められます。共通の資質は次の4つです。

1. 熱意（バイタリティ）
2. 自信
3. 誠実さ
4. 協調性

ですから、面接においてはあなたが上記4つの資質を持っていることを強調せねばなりません。

図の1に見られるように、Iの領域にいる人が最も望まれる人物像です。

したがって、採用試験においても試験管はテクニカルスキルとヒューマンスキルの両面の可能性をみます。

ですから皆さんも自分がIの領域の人間であることを印象付けねばなりません。

そこで、面接における重要なポイントは「3・3・3の法則」です。(図2)

## 2. 3・3・3の法則を身につけろ

3・3・3の法則とは 3秒、30秒、3分のことです。面接官はまず他人を見かけで判断します。「男はみかけではない、中身で勝負だ」などといってもはじまりません。

男も女もまず外見で判断されます。しかも、地位の高い人ほど、相手をみかけで判断するという説もあります。これが最初の3秒です。人は3秒間で相手を見ていわゆる第一印象を決めてしまいます。

次に30秒で挨拶をします。これが下手だともうだめです。「なんだこいつは挨拶も口々にできないのか。一体何しにきたんだ」と思われたらもうおしまいです。特に地位の高い人や年配の人はとても気にします。堂々とせねばなりません。

次に実際に面談し、質問に答えるわけですが、大体3分位で合否がきまってしまいます。ですから本当は相当の準備と練習が必要です。ところが、これが結構KDD式の人が多いようです。

K D Dとは勘、度胸、出たところ勝負です。

就職面接においてはK D DではなくJ Rでいくべきです。

J Rとは準備と練習です。

そこで次に「3・3・3の法則」の実践的なポイントをあげます。

#### ① 席につくまでが勝負—最初の3秒

私の友人で外資系の会社の社長を長くやっていた山田修氏は、「私は面接に来てもらった人の80%位までは、面接室に入ってきたとたんに落としてしまいます」といっています。

入ってきたときの眼つき、顔つき、態度、服装、お辞儀のしかた等で、大体その人が採用するにふさわしいかどうか分かってしまう、というのです。

部屋へ入っていくときの態度は「丁寧で落ち着いた」ものでなければなりません。丁寧で明るく嬉しそうに挨拶できるようによく練習しておかねばなりません。

面接者は応募者の顔と服装をみます。

当然のことながら、ダークスーツに明るいネクタイ。

髪型、ヒゲの手入れ、Yシャツ、爪、靴。不潔は論外だが、むさくるしい感じはいけない。小ざっぱりして育ちの良い感じが理想的です。

## ② 挨拶を徹底的に練習する（次の30秒）

「次の人どうぞ」といわれたら、ドアをあけて部屋に入ります。その時、面接者席の真ん中を見て（アイコンタクト）、ニッコリ笑い（スマイル）、大きな声で「おはようございます」と挨拶をします（トーク）。つまり、「LOOK SMILE TALKの法則」です。（図3）

### 大きな声で

声の大きさも重要な要素です。声が大きいのは自信のあらわれです。今考えているよりも倍位の声で挨拶してみてください。それだけで印象はグッとあがります。

### 眼・視線をしっかりと

そのときの眼も大切です。昔から、「眼は口ほどにモノを言い」といいます。オドオドした眼、ウロウロ泳いでるような眼は絶対に直さねばなりません。

優しい眼、利口そうな眼、いやらしい眼、もの欲しそうな眼、ヘビのような冷たい眼というように、人間性、人柄は必ず眼に出ます。

しっかりと試験官の眼を見て話すように心がけます。

その辺の所はよほど練習をしないとできません。

実際に声を出して、できればビデオに自分自身を撮って見てみると良いでしょう。

## スマイル

真剣なまなざしは必要ですが、顔の表情も大切です。にこやかに自信にあふれたスマイルを心がけて下さい。

ここまでで皆さんは3好を獲得せねばなりません。

3好とは ①好意 ②好感 ③好印象の3つです。

面接の80%はここまでで決まってしまう、といっても過言ではありません。くれぐれも外見的要因、ボディランゲージ及び話し方に重点を置いて下さい。自宅でリハーサルを何度もやって下さい。ぶっつけ本番は必ず失敗します。

## ③ 面接トークは最初の3分が勝負

さあ、席に着いたらいよいよ面接の開始です。

大体、面接者のする質問は決まっています。

ですから、始めから想定質問応答集を作って練習しておかねばなりません。

## 主な質問の例

1. 「あなたが当社を入社希望した理由は？」
2. 「自己紹介して下さい」
3. 「5年後、10年後どのような仕事をしていきたいですか？」
4. 「もしも採用されたら、ずっと勤務するつもりですか？」
5. 「学生時代どのような勉強をしてきましたか？」
6. 「自分の長所と短所について話して下さい。」

## 面接中の注意事項

### 1. 面接官の質問を途中でさえぎらない

早とちりして、質問が終わる前に答えようとする人がいます。必ず最後迄質問を聴くようにします。質問の意味がよく分からない時は「ご質問の意味はこういうことですね」といって確認すると良いでしょう。

### 2. 意地悪な質問を受けても感情的にならない

試験官がかりに失礼な質問、馬鹿にしたような質問、差別的な質問をしてきても、冷静さを失ってはいけません。あくまでもおだやかに、育ちの良いやり方で応えて下さい。

### 3. 面接中に時計を見るな

せっかくだいいい感じで面接が進んでいるのに時計を見るということは面接を早く終わらせたいというあなたの気持ちが出たと思われれます。

### 4. 面接官の机の上の書類をのぞくな

なんとなく、机の上の書類が気になるし、自分に対する採点やコメントがどうなっているのか知りたいものです。でも机の上の書類をのぞくのは見苦しいのでやめて下さい。

### 5. 分からないことを分かったふりして答えるな

分からないことを分かったふりをしてトンチンカンな答えをすると、ブチこわしになります。浅薄さがバレてしまいます。分からない時は「申し訳ありません。その件については専門外で

すので分かりません。今後勉強したいと思います。」というように答えます。

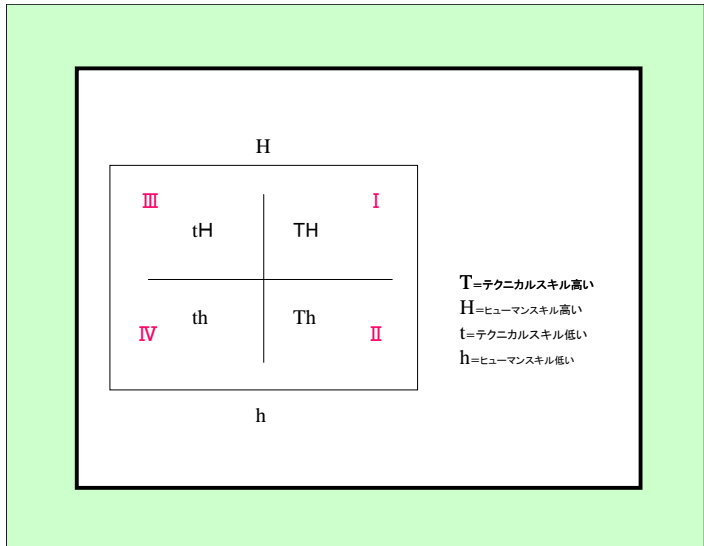


図 1

3・3・3の法則

3秒 外見的要素  
30秒 あいさつ、話し方  
3分 実際の面接

図 2

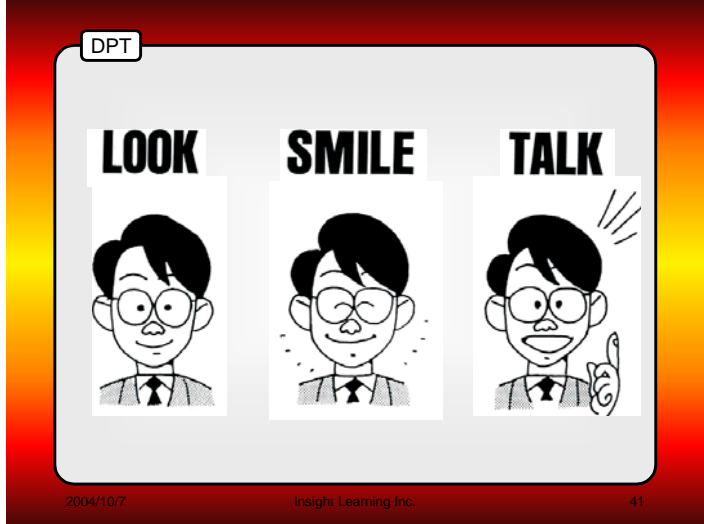


図 3